

## 互いの個性の理解

### ◆学習のねらい

友達や教師が見付けてくれた自分の良いところを知ること、自分の良いところを積極的に知ろうとする態度を育てる。

### ◆評価

自分や友達の良いところを見付け、自分の良いところに気付いている。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

※生活科における「自分を振り返る活動」との関連を図ることができる。

### ◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校1・2年生版 心あかるく』
- ・「じぶんのよいところカード」
- ・「ともだちのよいところカード」

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	1 本時の学習を知る。	
	じぶんのよいところをしよう。	
展開 25分	2 自分ができるようになったことや自分を紹介することを探して、「じぶんのよいところカード」に記入する。	○ 教師が、自分の良いところとはどういうものかについて、分かりやすく例を挙げて説明する。 ○ 教師が自分の良いところを紹介する。 (例：好きなことは～です。～ができるように（上手に・得意に）になりました。～をがんばっています。)
	3 3人グループになり、自分以外の2人の良いところを「ともだちのよいところカード」に書く。 ・ そうじのときに、ほうきをゆずってくれた。 ・ 走るのが速い。 ・ たくさん本を読んでいる。	○ 友達のことが分からない児童には声を掛け、行事で頑張っていた姿や児童が気付かなかった姿を例に挙げる。 ○ 児童は友達の頑張りに気付けない場合もあるので、教師も具体的事実に基づく全員分の良いところや頑張っているところを探しておき、探せない児童に伝えながら、良いところに気付かせる。
	(1) 「ともだちのよいところカード」を書いたら、それぞれ友達に渡す。 (2) 友達から渡されたカードを読む。	
	4 友達からもらった「よいところカード」を読んで、感じたことや、友達に言われて気が付いた自分の良さについて発表する。	○ 感想の中から、友達に自分の良いところを見付けてもらってうれしかったことなどを引き出す。
まとめ 10分	5 本時の振り返りを行い、自分には、自分が知らなかった良いところがあることに気付く。 ・ 友達が、自分の良いところを見付けてくれてうれしかった。	○ 『心あかるく』の120ページ「自分のことで」、頑張ったことやうれしかったこと、できるようになったことなどを記入させる。



## 互いの個性の理解

### ◆学習のねらい

友達や教師が見付けてくれた自分の良いところを知り、自分の良いところを伸ばしていこうとする態度を育てる。

### ◆評価

自分や他者の良いところに気付き、互いに認め合いながら自分の良いところを伸ばしていくことの大切さを理解している。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

### ◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校3・4年生版 心しなやかに』
- ・〔自分らしさカード〕(小学校低学年「自分のよいところカード」を参照)
- ・「○○さんらしさカード」(小学校低学年の「ともだちのよいところカード」を参照)

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習を知る。	○ 児童が自分らしさ、友達らしさを見付けやすくなるよう、「らしさ」とはどのような意味であるかを確認してから、教師が自分らしさを紹介する。
	自分らしさをみがこう。	
展開 30分	2 『心しなやかに』86ページの絵を見て、自分の良いところや自分の気になるところについて考え、2人組で話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元気に挨拶ができる。</li> <li>・ 忘れ物が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2人組で話し合うことで、「自分らしさ」について考えやすくする。</li> <li>○ 自分の特徴について考えられない児童には、86ページの例以外の良いところについても紹介する。</li> <li>○ 話し合い後、何人か発表し、全員で共有できるようにする。</li> </ul>
	3 『心しなやかに』87ページを読み、「自分らしさ」について考え、「自分らしさカード」に書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私の自分らしさって何かな。</li> <li>・ 友達のことならすぐ分かるよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分で見付けられない児童や、迷っている児童には声を掛け、その児童の頑張っているところを伝え、自信をもって記入できるようにする。</li> </ul>
まとめ 10分	4 4人グループになり、自分以外の3人のことについてカードに書く。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 友達の紹介が書けたら、その友達に裏返して渡す。</li> <li>(2) 3人が書いてくれたカードを読み、自分で書いた「自分らしさカード」と比べる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童は友達の頑張りに気付けない場合もあるので、教師も具体的事実に基づく全員分の良いところや頑張っているところを探しておき、探せない児童に伝えながら、良いところに気付かせる。</li> <li>○ 「自分らしさカード」と友達が書いてくれたカードを比べ、自分も友達も思っている「自分らしさ」や、その人だけが気付いている「自分らしさ」があることを伝える。</li> </ul>
	5 感想をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達が見付けてくれた新しい自分らしさを知った。</li> <li>・ 自分らしさを大切にしたい。</li> </ul>	○ 自分らしさを大切にすることや、みんながお互いのその人らしさを認め合うことで、学級が楽しくなることに気付かせる。

板書例

自分らしさをみがこう

◎自分のよいところ

- ・元氣にあいさつできるところ。
- ・だれにでもやさしいところ。

◎自分の気になるところ

- ・わすれ物が多いところ。
- ・おこりっぽいところ。

◎自分らしさとは・・・

自分らしさをみがく

= (イコール)

自分の「よいところ」をのばしていくこと

自分らしさについて考えよう

◎自分以外の「その人らしさ」を見つけ、伝え合おう

- ① 「○○さんらしさカード」を書く。
- ② カードが書けたら、その友達にうら返してわたす。
- ③ 自分にもらったカードを読む。

◎感想

- ・自分の「よいところ」を新しく知ることができた。

発展的な展開例

	学習活動	◎指導上の留意点
展開 30分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 『心しなやかに』86～87ページを基に、「自分らしさ」を磨いていくことについて考える。</li> <li>2 『心しなやかに』87ページの自分らしさを磨くために「のぼしたいところ」と「このようにして、のぼしたい」の欄にそれぞれ記入する。</li> <li>3 4人グループになり、ほかの3人に向けて自分らしさを磨くために「のぼしたいところ」と「このようにして、のぼしたい」ことを発表する。</li> <li>4 発表後、ほかの3人から、自分の「良いところ」をのぼす方法についてのアドバイスをもらう。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 学級全体で行い、内容を板書する。</li> <li>◎ 『心しなやかに』87ページの「自分らしさをみがく=自分の『良いところ』をのぼしていくこと」という部分を全体で確認する。</li> <li>◎ 『心しなやかに』87ページには「先生や家族からのアドバイス」の欄もあるため、授業後に教師や家族がコメントを記入できるようにする。</li> </ul>

## 互いの個性の理解

### ◆学習のねらい

自分の良いところ、友達の良いところを見付け、学級の一員としての自分に気付くとともに、全員の良いところを学級で生かしていこうとする態度を育てる。

### ◆評価

自分や他者の良いところに気付き、認め合い、助け合うことの大切さを理解している。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

※保健における「心の発達に関する学習」との関連を図ることができる。

### ◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校5・6年生版 心たくましく』
- ・「〇〇さんの良いところカード」

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 『心たくましく』94ページを読み、本時の学習を知る。	○ 自分らしさとは、自分のよさだけでなく、変えていきたいと思うところも含めて「自分らしさ」であることを伝える。
	もっとかがやく自分をめざそう。	
展開 30分	2 自分の良いところや自分の伸ばしたいところを考えて、『心たくましく』94～95ページに書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 真面目なところ。</li> <li>・ すぐに怒ってしまうから、そこを直したい。</li> <li>・ 毎日、自分からすすんで勉強したい。</li> </ul>	○ 自分で見付けることができない児童や、迷っている児童には声を掛け、その児童の良いところを伝え、自信をもって記入できるようにする。
	3 4人グループになり、自分以外の3人のことを「〇〇さんの良いところカード」に書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんなことにも前向きに取り組んでいる。</li> <li>・ 誰にでも優しい。</li> </ul>	○ 自分以外の全員の良いところを一点以上考えられるように時間を確保する。 ○ 友達の良いところを見付けられない児童には、教師が例を示すなどして、友達の良いところに気付かせていくようにする。
	4 友達の紹介が書けたら、「〇〇さんの良いところカード」を一人ずつ渡す。	○ 学級の実態に応じて、カードに書いた内容を読んで渡してもよい。
まとめ 10分	5 本時の感想を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達が見付けてくれた新しい自分らしさを知ることができた。</li> </ul>	○ 一人一人が、互いの良いところを認め合うことで、学級が楽しくなることや、行事が成功することなどに気付くことができるようにする。

板書例

もっとかがやく自分をめざそう

○自分らしさって何だろう

「心たくましく」より

「良いところ」も「変えたいと思うところ」も全部ふくめて、まるごと自分自身

○自分の良いところや、伸ばしたいところ

- ・真面目なところ。
- ・すぐに怒ってしまふから、そこを直したい。
- ・毎日すすんで勉強するところ。

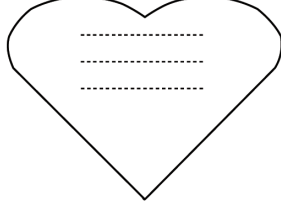
○自分以外の人の「良いところ」を見付け、伝え合おう

- ・どんなことにも前向きに取り組んでいる。
- ・だれにでも優しい。

○感想

- ・友達が見付けてくれた新しい自分らしさを知ることができた。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 25分	1 学級目標を達成するために生かすことができる自分の良いところやグループ内の友達の良いところについて「イメージカード」に記入する。	○ 友達の良いところについては、この後に協議するグループのメンバーについて書かせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学級目標を達成するために</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>自分の良いところ 学級目標を達成するために、わたしは自分の良いところである（ ）を生かしていきます。</p> <p>友達の良いところ 学級目標を達成するために、〇〇さんの良いところである（ ）を生かしてほしいです。</p> </div>	
	2 グループになり、「学級目標」を達成するために生かすことができる自分の良いところ及び友達の良いところについて発表する。	○ グループのほかの人が考えた良いところを聞くことで、自分が気付いていなかった良いところにも着目させる。
3 友達から聞いた良いところも含め、学級目標を達成するために生かしていきたい自分の良いところについて改めて考える。	○ 様々な自分の良いところを生かしながら、学級の一員として学級目標を達成していこうとする意識をもたせる。	

資料等

( ) さんの良いところカード

---



---



---

名前 ( )



## 互いの個性の理解

### ◆学習のねらい

良いところを伝え合う活動を通して、今まで気付かなかった自分の良いところに気付き、自分と友達の良いところを学級で生かしていこうとする心情を育てる。

### ◆評価

友達のその人らしさについて考えたり、自分の良いところを考えたりして、それぞれがもつ個性を認めることの大切さに気付いている。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

※保健体育における「自己形成に関する学習」との関連を図ることができる。

### ◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 中学校版 心みつめて』
- ・ノート（ワークシートにしてもよい。）

### 展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 15分	<p>1 ウォーミングアップを行う。</p> <p>2 本時の学習のねらいや方法を知る。</p>	<p>○ 深呼吸、座ったままのストレッチ等を行い、リラックスさせるとともに、「自分らしさ」を考える意味について伝える。</p> <p>○ 4人程度でグループを作っておく。</p> <p>○ ノートへの長所と短所の記入は、事前に済ませる。長所が書けない生徒には教師が助言しておく。</p>
「自分らしさ」や友達の「その人らしさ」を見付けよう。		
展開 25分	<p>3 グループ内で2人組になり、ノートに書いた友達の長所と短所から、相手のその人らしさをまとめ、互いに読み合う。</p> <p>4 相手のその人らしさについて自分との比較から伝える。</p> <p>5 2人組を替えて、繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分はどちらかという早く物事を進めたいが、友達はじっくり考えて物事を進めたいことが分かった。</li> </ul>	<p>○ 長所は称賛し、短所は見方を変えれば長所となるという「リフレーミング」の考えを伝える。</p> <p>○ ノートに書かれていない長所に気付いていれば、相手に伝えるよう助言する。</p> <p>○ 授業の途中で友達が認めている長所について発表させる。</p> <p>○ 時間があれば、ほかのグループと交流させる。</p>
まとめ 10分	<p>6 ノートに感想を書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしさを発見した気がする。</li> <li>・友達のその人らしさが分かる人になりたい。</li> </ul>	<p>○ 『心みつめて』135ページに「こうしたい」自分を書くことでもよい。</p> <p>○ 自尊感情や自己肯定感を高めることができるよう配慮する。</p>

板書例

「自分らしさ」や友達の「その人らしさ」を見付けよう。

○「自分らしさ」とは

『心みつめて』より

自分が嫌だと思っているところも、ちよつとした磨きを加えることで、光り輝く「自分の魅力」「自分らしさ」に変えることができるかもしれない。

※例えは

「意地っぱり」の自分は

芯の強さをもった「人から信頼される自分」になれる

○「自分らしさ」や友達の「その人らしさ」について

- ・自分はどちらかというと早く物事を進めたいが、友達はずっくり考えて物事を進めたいことが分かった。
- ・自分と友達の「らしさ」は同じだと思っていたが、話してみると違うことが分かった。

○感想

- ・自分らしさを発見した気がする。
- ・友達のその人らしさが分かる人になりたい。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 25分	<p>1 4人グループになり、自分の短所をカードに一人3枚書く。</p> <p>2 自分以外の3人にカードを渡し、生徒それぞれが渡されたカードの裏面に短所を長所として見方を変えた内容を考え、書く。</p> <p>(例)</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">おしゃべり</div> <div style="margin: 0 10px;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">人づきあいがよい</div> </div> <p>3 一人ずつ長所として見方を変えた内容を発表する。</p> <p>4 学習活動を振り返り、感想を発表し合う。</p>	<p>○ 見方を変えることが困難な生徒には、具体例を伝える。</p> <p>○ 見方を変えると長所になることに気付かせる。</p> <p>○ 自分では短所だと思っていたことも、人によっては長所と見ている場合もあることに気付かせる。</p>

資料等

○ノート（例） ※見開きで使う。面接などの自己アピール文として活用できる。

「自分らしさ」や友達の「その人らしさ」を見付けよう

**長所**

○自分の長所 明るく、元気である。

○スポーツが大好きで、部活動に一生懸命取り組んでいる。

---

**友達から**

(○○より) △△さんは、毎朝、先生や友達に元気にあいさつしていますね。授業中も、よく発言して、積極的だと思います。

---

**友達から**

(○○より) △△さんは、部活動で、技が身に付くまで何度も練習していた。努力の成果だと思う。おどろきというけれど、細かいところを気にしないのは、良いところであるとも言えると思う。

**短所**

○おどろきである。

○あまり深く考えなくて、発言してしまうところがある。

---

**友達から**

(○○より) 話合いの司会をしていたとき、誰も発言しなくて困っていた。△△さんが、真っ先に発言してくれたので、次の人が言いやすくなった。すぐに発言できるのは、長所だと思う。

---

**感想**



## 互いの個性の理解

### ◆学習のねらい

友達のその人らしさを探すとともに、自分らしさを生かして地域や社会のために貢献していこうとする態度を育てる。

### ◆評価

地域活動に関心を持ち、自分らしさを生かして地域や社会に貢献しようとする意識を高めている。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

※総合的な学習の時間や保健体育における「自己実現に関する学習」との関連を図ることができる。

### ◆主な使用教材

・ワークシート

### 展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習を知る。	
	「自分らしさ」と友達の「その人らしさ」を探そう。	
展開 40分	2 巨大地震の発生により、避難所となった学校で、自分やグループのメンバーの好きなことや得意なことを生かして、どのような活動をしてみたいかを考えて、ワークシートに記入する。	○ 「避難所」について資料に基づき説明する。または、避難所設営訓練について確認する。
	3 ワークシートに書いた内容をグループで発表し合い、その中からグループで取り組んでみたいものを一つ決める。	○ 役割分担では、「その人らしさ」に着目し、それを生かせる分担について考えることを伝える。
	4 決めた活動内容について、その活動に必要な役割と担当者を考える（例：絵本の読み聞かせをする、一緒に校（園）庭で遊ぶ）。	○ 避難所には乳児や幼児、高齢者もいることを指摘して、活動を想定しやすくする。
まとめ 5分	5 全体で発表し、意見や感想を交換する。 ・ 読書の好きな人が読み聞かせをするのは、適任だね。	○ 全体での発表を受けて、教師自身の感想や、どの役割も大切であることを伝える。
	6 今回の活動について考えたことを通して「自分らしさ」や友達の「その人らしさ」について気付いたことを発表する。	○ 活動に見られるその人なりの視点の違いや感じ方の違いについて、気付くような説明を加える。
	7 本時の振り返りを行い、ワークシートに感想を記入する。	○ 自尊感情や自己肯定感を高めることができるよう配慮する。

板書例

- 「自分らしさ」と友達「その人らしさ」を探そう。
- 「自分らしさ」と友達「その人らしさ」
  - ↓ 様々な活動を通して表れる。
- 様々な地域活動(例)
  - ・ 地域で行う地域活動
  - ・ 生徒会で行う地域活動
  - ・ 部活動を通して行う地域活動
- 「避難所ではできること」
 

どのような活動をしてみたいか

  - ・ 絵本の読み聞かせをする。
  - ・ 一緒に校庭で遊ぶ。
- 「自分らしさ」や友達「その人らしさ」について、気付いたこと
  - ・ それぞれ、自分の得意なことや、好きなことを生かして考えていた。
  - ・ 同じ地域活動でも、いろいろな活動が考えられていた。
- 活動の振り返り

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 40分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 将来就きたい職業について、どのように自分の長所を生かしていくのか考える。</li> <li>2 自分の短所を長所として見方を変えるためにどうすればよいのか考える。</li> <li>3 グループ(3、4人)で、自分が考えた内容を発表し、ほかのメンバーから長所の生かし方や短所を長所として見方を変えるための方法等についてアドバイスをもらう。</li> <li>4 アドバイスを基に、「自分らしさ」について振り返る。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アドバイスは肯定的な内容になるように事前に指導する。</li> <li>○ 長所を更に伸ばすことや、短所を補っていくことなど、自らの資質・能力を向上させるための方法は、各自異なり、多様な方法が考えられることに気付かせる。</li> </ul>

資料等

<p>1 地域で行う地域活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者との交流体験                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化祭への招待</li> <li>・ 地域合同防災訓練 等</li> </ul> </li> <li>○ 生徒会による地域への挨拶運動や地域清掃                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅や街角での挨拶</li> <li>・ 街路樹の落ち葉の清掃 等</li> </ul> </li> </ul>	<p>3 部活動として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 部活動の一環で、地域貢献活動等に取り組む。 例) 運動部による近隣の中学生の技術指導 文化部の施設訪問による演奏会</li> </ul>
<p>2 生徒会で行う地域活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒会長・副会長が中心となって、自分の近隣の現状を踏まえて、自分たちでできるボランティア活動を考え、実施する。生徒会本部が中心となって生徒会長・副会長と話し合い、どんな活動ができるか検討する。</li> <li>○ 地域社会の一員としての存在を確認したり、達成感や充実感を味わったりすることにより、ボランティア活動への意識を高め、校内だけでなく地域における実践へと広げる。</li> </ul>	<p>4 活動内容と連携機関(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子供の健全育成を図る活動…保育園、児童館 等</li> <li>○ 地域安全活動…防犯協会、PTA 等</li> <li>○ 災害救助活動…消防署、消防団 等</li> <li>○ 町づくりの推進を図る活動…町内会、商店街 等</li> <li>○ 福祉等の増進を図る活動…福祉・医療施設 等</li> <li>○ 環境保全を図る活動…公園・港湾・森林事務所 等</li> <li>○ 文化・芸術・スポーツの振興を図る活動 …地域の小学校、中学校 等</li> <li>○ 社会教育の推進を図る活動…図書館、博物館 等</li> </ul>

## 互いの個性の理解

### ◆学習のねらい

自分の良いところに気付くとともに、友達や周りの人の良いところを積極的に見つけようとする態度を育てる。

### ◆評価

自分や友達の良いところを見付けたり、知ろうとしたりしている。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

### ◆主な使用教材

・「いいね！カード（自分用、友達用）」

### 展開例

	学習活動（・児童・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習を知る。	
	自分と友達の「良いところ」を見つけよう。	
展開 40分	<p>2 自分にはどのような「良いところ」があるかを考え、「いいね！カード」に書く。</p> <p>3 「いいね！カード（自分用）」に書いた内容を発表する。 ・ いつも丁寧に挨拶をしている。 ・ 元気で、明るい。</p> <p>4 隣の友達の「良いところ」を見つけ、「いいね！カード（友達用）」に書く。 ・ 整理整頓が上手で、いつも身の回りをきれいにしている。 ・ 分からないことを教えてくれる。 ・ 誰にでも優しい。</p> <p>5 「いいね！カード（友達用）」に書いた内容を発表する。</p> <p>6 隣の人にカードを渡す。</p> <p>7 ほかの友達の良いところをカードに書き、読んでから渡す。</p>	<p>○ 文字を書く等の表現が苦手な児童・生徒がいた場合、コミュニケーションツール等を活用する。</p> <p>○ ねらい・内容等を視覚的に示す。</p> <p>○ 教師が良いところの具体例を説明する。 ・ 学習、運動、芸術面での特技や個性 ・ 明朗快活さ ・ 基本的な生活習慣 ・ 優しさ ・ 努力 ・ 責任感 ・ 創意工夫</p> <p>(例) ・ 係の仕事を一生懸命やっている。 ・ 挨拶をきちんとしている。 ・ 部活動（クラブ活動）で頑張っている。 ・ いつも整理整頓がきちんとしてきている。等</p> <p>○ 発表が難しい児童・生徒は、教師が代わりに伝えるなど、全員で取り組めるようにする。</p> <p>○ 友達の良いところを挙げさせ、様々な見方があることや自分の良いところに気付いてくれている人がいることを理解させる。</p> <p>○ 文字が苦手な児童・生徒は、絵やシンボルなどで示してもよい。</p> <p>○ 係の仕事を頑張っている、字をきれいに書くなど例を挙げてよい。</p> <p>○ 発表された良いところを板書する。</p> <p>○ 発表した児童・生徒数より多く発表させる。</p> <p>○ 一人一人が、多くの良いところをもって伝える。</p> <p>○ T1は授業を進め、T2は児童・生徒支援を行う。</p>
まとめ 5分	8 本時を振り返る。	<p>○ 自分が考える良いところと友達が伝えるその人の良いところを紹介させ、自分が気付いてなかった良いところに気付かせる。</p> <p>○ 一人一人の良いところなどに気付くことができるよう配慮する。</p>

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

互いの個性の理解

望ましい人間関係の構築

規範意識の醸成

教員研修プログラム

いじめ問題への対応事例

保護者プログラム

地域プログラム

板書例

自分と友達の良いところを見付けよう。

○自分にはどのような良いところがあるのでしょうか。

たとえば

- ・ 係の仕事を一生涯命やっている。
- ・ 挨拶をきちんとしている。
- ・ 部活動（クラブ活動）で頑張っている。

○友達の良いところを見付けましょう。

- ・ 整理整頓が上手で、いつも身の回りをきれいにしている。
- ・ 分からないことを教えてくれる。
- ・ 誰にでも優しい。

○気付いたこと

↓みんな多くの良いところをもっている。

○振り返り

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開	1 付箋紙に友達の良いところを書く。	○ 付箋紙には自分の名前を必ず書くことを伝える。
	2 付箋紙に書いた内容を発表する。ほかの児童は伝えてもらった自分の良いところについてメモを取る。	○ 「〇〇さんが〇〇をしてくれて嬉しかった」というエピソード等があれば併せて発表する。
	3 付箋紙を台紙に貼り、友達に渡す。	○ 自分の良いところが視覚的に分かるよう工夫する。
	4 良いところを伝えてもらいどう感じたか、感想を言う。	○ 具体的に、誰のどのようなときの行動が良かったというエピソードを、児童・生徒から引き出すようにする。 ○ 伝えることが難しい児童・生徒には、教員が代わりに伝える等の支援をする。

資料等

○「いいね！カード（自分用）」（例）

自分と友達の良いところを見付けよう

いいね！ カード（自分用）

○「いいね！カード（友達用）」（例）

自分と友達の良いところを見付けよう

いいね！ カード（友達用）

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

友達とよりよい人間関係を形成するには、相手のことをよく知る必要があります、相手の話をしっかり聞くことが大切であることを理解させる。

### ◆評価

相手の話を聞くことで、相手のことを理解しようとしている。

### ◆教育課程における位置付け

#### 特別活動

※国語科における「話すこと・聞くこと」との関連を図ることができる。

※同様の機会を複数回もつことで、児童同士の理解をさらに深めることができる。

### ◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校1・2年生版 心あかるく』
- ・振り返りカード

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
変 身	1 絵や写真を見て、何をしているのかを考える。	○『心あかるく』98、99ページに掲載している内容を使用する。
	2 本時の学習を知る。	
展 開 30 分	ともだちのことをもつとしよう。	
	3 教師の例を見て、自分の話す内容を決める。 ・友達と一緒に遊んだことや学習したことを通して、元気が出たことを教材集に記入する。	○ 友達との関わりの中で、元気が出た内容を短い文で書かせる。 ○ 話すことが苦手な児童もいるため、教師が話す内容の例を示す。 ○ 学級の実態に応じ、【話す人の例】や【質問の観点】を板書で示したり、カードにして配布したりして児童に参考にさせてもよい。
	【話す人の例】 私は、今日の休み時間に、なわとびをしました。場所は、校庭です。友達の〇〇さんと一緒にやりました。はじめは、前跳びや後ろ跳びをしました。50回以上続けて跳べたことがうれしかったです。	
	4 活動について教師の説明を聞く。	○ 活動に入る前に、教師が2人組での活動の仕方を示す。一方の役は、児童にやらせてもよい。
	【聞く人の質問の観点の例】 いつ、どこで、誰と、何を、どんな気持ちでしたか、明日は何をするか、など	
	(1) 2人組でじゃんけんをする。 (2) 勝った人は、話す人となり、休み時間に誰とどんな遊びをしたのか、何が面白かったのかなどについて話す。 (3) 負けた人は、聞く人となる。 ① 自分のことについては話さないでうなずいて聞く。 ② 話の途中で、「知っている」と言ったり「どうして」と尋ねたりしない。 ③ 話す人が話し終わったら、質問をする。 (4) 役割を交替して、繰り返す。	○ 人数が足りないときは、教師が入る。 ○ 話す人と聞く人の区別をはっきりさせ、きちんと自覚させる。 ○ 早く話し終わってしまう場合は、もう一度丁寧な、内容を付け加えて話すように促したり、質問させたりする。 ○ 聞く人の態度が重要であることを伝える。
	5 2人組で実際に行う。(3分程度ずつ) 6 ほかの2人組と一緒に、4人グループを作り、自分が聞いた友達の話を新しくグループになった友達に話す(3分程度ずつ)。 7 友達の話を聞いてどう感じたかを最後の2人組で話し合い、学級全体に発表する。	○ 活動が早く終わった2人組から話し合いをさせる。
	8 本時について感じたことを振り返りカードに書く。 ・友達のことをたくさん知ることができた。	○ 「友達の話をよく聞いたことで、友達をもっとよく知ることができた」、「友達が私の話をよく聞いてくれてうれしかった」などの内容が出るとよい。
ま と め 10 分		



板書例

ともだちのことをもっとしよう。

○えやしやしんをみて、なにをして  
いるか、かんがえよう。

- みんな木の上でたのしそう。
- 一人車やボールであそんでいるね。
- みんな、なかがよさそう。



○ともだちのことをもっとしよう。

ふたりぐみでじゃんけんをする。

かけた人

↓はなす人

(休みじかんにあそんだこと)

まけた人

↓きく人

【きく人のやくそく】

- うなずいてきく。
- はなしのとちゅうで「しっている」といったり「どうして」とたずねたりしない。
- はなす人がおわたったら、しつもんしてよい。

○ともだちのはなしをきいて、  
かんじたこと

- ともだちのことをたくさんしることができた。
- ともだちのはなしをしんげんにきくことができた。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	<p>1 どのような話し方・聞き方ができるとよいかグループで話し合う。</p> <p>2 グループ内で発表する。</p> <p>(1) 発表のテーマ（好きな動物、好きな遊び等）をグループで決める。</p> <p>(2) グループ内でじゃんけんをして、発表順を決める。</p> <p>(3) 発表順に、テーマに沿って自分の考えを発表する。</p> <p>3 時間があれば、テーマを変えて発表を行う。</p>	<p>○ 発表の際のルールを守って活動できるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>話す人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手を見て最後まで話す。</li> </ul> <p>聞く人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手を見てうなずいて聞く。</li> </ul> </div>

資料等

○振り返りカード（例）

ともだちのことをもっとしよう

なまえ \_\_\_\_\_

○ともだちのことをして、どうおもいましたか。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○授業で使用するイラスト等



『心あかるく』98、99 ページ

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

コミュニケーションを行う上で、言葉で伝えることに加え、相手の動きや表情をよく見たり、よく聞いたりして、相手が話したいことを知ろうとすることも大切であることを理解させる。

### ◆評価

相手に気持ちを伝えるにはどうすればよいかを考えて話し合う活動を通して、話を聞く態度や方法について理解している。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

※社会科における「調べたことを伝え合う活動」等との関連を図ることができる。

### ◆主な使用教材

・ワークシート

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	<p>1 インタビューを通して、友達を紹介する学習であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達が興味をもっていることを聞きたい。</li> <li>・ 友達の得意なことって何だろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 難しそう、できないなどの反応が出ることが予想されるが、不安にならないようにし、楽しい雰囲気を作る。</li> <li>○ 教師と児童でインタビューを実演し、何をすればよいか分かりやすくする。</li> </ul>
	インタビューして分かった友だちのことを紹介しよう。	
展開 30分	<p>2 インタビューをする。</p> <p>(1) 2人組になった人と順番に、相手の好きなこと、もの、宝物などについてインタビューしてカードにメモする。</p> <p>(2) どのように話を聞いてもらうとうれしかったかを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ うなずいて聞いてくれた。</li> <li>・ にこにこしてくれた。</li> <li>・ 楽しそうに聞いてくれた。</li> </ul> <p>3 他者紹介をする。</p> <p>近くにいる2人組と4人グループになり、先ほどインタビューした内容をほかの2人に他者紹介する。</p> <p>4 他者紹介をして感じたことをグループ内で発表する。</p> <p>5 グループ内で発表したことを学級全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ インタビューする内容は事前にワークシートに記入しておき、スムーズにインタビューをすることができるようにする。</li> <li>○ 時間が余ったら、自分の聞きたいことについてインタビューしてもよいと伝えておく。</li> <li>○ 相手が答えにくい質問はしないように指示する。</li> <li>○ よい聞き方を意識して紹介を聞くよう促す。</li> <li>○ 聞いている人は、なかなか自信をもって話せない人に対して温かく受け入れられるようにする。</li> <li>○ 何人かに発表させ、話を聞く態度や方法について価値付ける。</li> </ul>
まとめ 5分	<p>6 学習を振り返る。</p> <p>話をよく聞くための方法を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートに書いた感想と結び付けてまとめる。</li> </ul>

板書例

インタビュアーして分かった友だちのことをしようかいしよう。

○インタビュアーで友だちに聞いてみたいこと

- ・今、きょう味をもっていること
- ・とくいなこと

○インタビュアーのやり方

二人組になった人とじゅん番に、相手のすきなこと、すきなもの、たから物などについてインタビュアーして、カードにメモする。

○どんなふうに話を聞いてもらうとうれしかったか。

- ・うなずいて聞いてくれた。
- ・ここにこしてくれた。
- ・楽しそうに聞いてくれた。

友だちのことをしようかいしよう。

- ・自分が聞いたことをほかの人に発表することは、自分のことを発表するときよりもきんちょうした。
- ・ほかの人に自分のことをしようかいしてもらって、うれしかった。

○学習のふり返り

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	<p>1 隣の席の児童と、順番に「好きな遊び」について話す。</p> <p>(1) はじめに相づちを打ちながら話を聞く。</p> <p>(2) 次に、相づちを打たないで、相手をじっと見て話を聞く。</p> <p>(3) 最後にもう一度、相づちを打ちながら話を聞く。</p>	<p>○ ルールを守って活動できるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;活動のルール&gt;</p> <p>話す人：最後まで話す。</p> <p>聞く人：「相手がしてもらったらうれしいだろうな」と思う相づちを打ちながら聞く。</p> </div>
	<p>2 近くの2人組と4人グループになり、2人が話している様子を、他の2人が観察する。</p> <p>(1) 1と同様に、「好きな○○」について話す。</p> <p>(2) 観察児童は感じたことを発表する。</p>	<p>○ 観察している児童に、話す人と聞く人の態度や行動に着目して観察することを伝える。</p>
	<p>3 学級全体で活動の感想を話し合う。</p> <p>(1) 相づちを打ちながら聞いてもらってどう感じたか。</p> <p>(2) 相づちを打たれないとどう感じたか。</p>	<p>○ 相づちを打つことの大切さに気づき、コミュニケーションのもつ「お互いを大切に」力が実感できるように配慮する。</p>

資料等

コミュニケーション能力の捉え方とその育成

- コミュニケーション能力を、いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話して情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力と捉え、多文化共生時代の21世紀においては、このコミュニケーション能力を育むことが極めて重要である。
- ミュニケーション能力を学校教育において育むためには、①自分とは異なる他者を認識し、理解すること、②他者意識を通して自己の存在を見つめ、思考すること、③集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと、④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと、などの要素で構成された機会や活動の場を意図的、計画的に設定する必要がある。

参考：文部科学省『子どもたちのコミュニケーション能力を育むために』平成23年8月

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

コミュニケーションを図ることで、互いに意思や感情、思考を伝え合うことや、新たな考えに気付いたり、考えを深めたりできることを理解させる。

### ◆評価

自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする活動を通して、コミュニケーションの大切さについて気付いている。

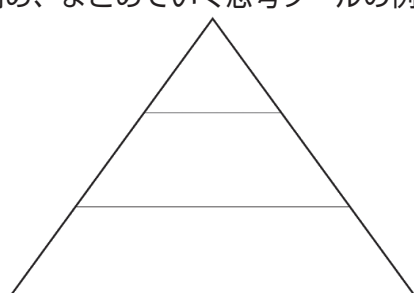
### ◆教育課程における位置付け

特別活動

### ◆主な使用教材

- ・ワークシート
- ・掲示用ルール
- ・付箋紙

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	1 本時の学習のねらいを知る。	○ いじめの防止に関わるテーマを設定する。
	いじめをなくすために必要な取組について話し合おう。	
展開 30分	2 「いじめられている人はどうしてほしいと思うか」、「いじめを防ぐために何が大切だと思うか」などの視点で、いじめをなくすために必要な取組を考え、簡単な言葉で付箋紙に書く。	○ 必要に応じて、状況を示すイラスト等を活用し、考える手だてとする。 ○ 付箋紙にできるだけ多く書くよう伝える。（個人活動） ○ 黒板にルールを掲示する。
	3 ピラミッド・チャートについての説明を聞く。	
展開 30分	<p>【ピラミッド・チャート】…グループでそれぞれの考えを高め、まとめていく思考ツールの例</p> <p>① まず、個人でテーマに対して考え、一つの考えごとに1枚の付箋紙に書く。その後、グループ全員の付箋紙をピラミッドの形の図の一番下の部分に全て貼る。</p> <p>② 4人程度のグループで話し合い、大事なものを選んだり、組み合わせる新しい考えを出したものを付箋紙に書いたりして、中央の段に貼る。</p> <p>③ 中央の段に貼られた付箋紙について話し合い、グループの意見として考えをまとめる。グループの意見を付箋紙に書いて、一番上の段に貼る。</p>	
	4 グループで「いじめをなくすために必要な取組」について、ピラミッド・チャートを行う。	
まとめ 5分	5 グループごとに、ピラミッドの頂点に立った主張とその理由を発表する。	○ 他グループの主張と自分のグループと比べながら聞かせる。
	6 自分たちでいじめをなくすために今日からできそうなことを決め、宣言する。	○ いくつかのグループに発表させる。



板書例

○学習の振り返り

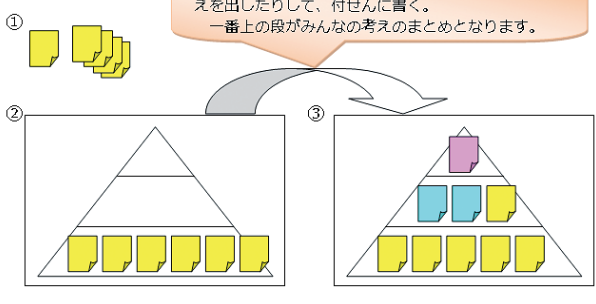
- ・ 一人一人がいじめをなくそうと意識し、行動すること
- ・ 相場の立場に立って気持ちを考えること
- ・ 見て見ぬ振りをしないようにすること
- ・ 一人でなやまず勇気を出して助けを求めること
- ・ お互いに支え合うこと
- ・ みんな平等だと思ひ、相手を大切にすること

○グループごとに考えた「いじめをなくすために必要な取組」

<ピラミッド・チャートの使い方>

- ① いじめをなくすために必要なことを考え、一つの考えごとに1枚の付せんを書く。
  - ② ピラミッド・チャートの一番下の部分に全て貼る。
  - ③ グループで大事なものを選んだり、組み合わせたりして、新しい考えを出したものを付せんに書き、ピラミッド・チャートの真ん中の段に貼る。初めの付せんより数が少なくなるようにする。
  - ④ 真ん中の段に貼られた付せんについてグループで話し合い、考えをまとめて付せんに書き、一番上の段に貼る。
- ※ この作業を行うことによって、みんなの考えを整理してまとめることができます。

話し合いながら、大事なものを選んだり、新しい考えを出したりして、付せんに書く。  
一番上の段がみんなの考えのまとめとなります。



いじめをなくすために必要な取組について話し合おう。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	1 グループで「いじめをなくすために必要な取組」について、ピラミッド・チャートを行う。	○ 順位付けの根拠や理由を説明できるように考えさせながら発表の準備をするよう伝える。
	2 グループで発表者を一人決め、残りのメンバーは隣のグループに移動する。	○ 発表グループと聞くグループに分かれ、1グループ3分程度で発表する。時間が余ったら、質問してもよいことを伝える。
	3 発表者から説明を聞いた後、そのグループが作成したピラミッド・チャートについての質問や意見を述べる。	○ ほかのグループの主張とその理由を、自分のグループと比べながら聞かせる。
	4 初めの発表者以外の発表者を決め、残りのメンバーは更に隣のグループに移動する。	○ 発表グループの児童は、質問内容を伝え、聞くグループの児童は、ほかのグループの良かったところや自分のグループと違う意見を伝えるように声を掛ける。
	5 自分たちのグループに戻り、ほかのグループから寄せられた意見等を基に、更に話し合う。	○ ほかのグループからの意見を参考に更に考えを深められるよう助言する。



## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

コミュニケーションにおいては、互いに意思や感情、思考を伝達し合うことや、相手の考えを尊重して話し合うことが大切であることを理解させる。

### ◆評価

自分の思いや意見を伝えながら、相手の意見を尊重することの大切さに気付いている。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

### ◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 中学校版 心みつめて』
- ・掲示用ルール
- ・単語カード（個人用、グループ用）
- ・ワークシート（個人用、グループ用）

### 展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	1 『心みつめて』146ページを読み、人によって捉え方が異なることを理解する。 2 本時の学習を知る。	○ 『心みつめて』146ページから、これまでの話し合いなどでも自分の考えや思いが友達と違ったことを振り返らせる。
行事を行う上で大切だと思うことを考え、話し合おう。		
展開 30分	3 学級全体で学校行事を一つ選び、その行事を行う上で大切だと思うカードを、個人で順位を付けて並べる（「ダイヤモンド・ランキング」の方法については「板書例」を参照）。 4 4人グループになって話し合い、グループのダイヤモンド・ランキングを作成する。 5 グループごとに、合意したカードの位置付け及びその理由を発表する。	○ 話し合う際は、以下のことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 全員の考えをきちんと最後まで聞く。</li> <li>② 考えが自分と違って「それはおかしい。」「間違っている。」などと言わない。</li> <li>③ 多数決では決めない。</li> <li>④ 少ない意見も大切な考えであり、新しい発見があるかもしれないのでよく聞く。</li> <li>⑤ 強く意見を言う人の言いなりにならない。</li> <li>⑥ ほかの人の考えを聞いて、なるほどと思ったら自分の考えを変える。</li> </ul>
まとめ 10分	6 集団による意思決定を行い、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と話し合うことで、考えは違っていても、相手のことがよく分かった。</li> <li>・ 自分では気付かなかった考えを知ることができた。</li> </ul> 7 東京都道徳教育教材集『心みつめて』147ページを読み、本時の学習内容を振り返る。	○ 自分とは違うものの見方や考え方に触れることで、自分の心が成長することを捉えさせる。 ○ 机間指導を行い、「意見がそれぞれ違う」という視点をもった生徒を選んでおく。 ○ 『心みつめて』の147ページ下の欄に自分の考えを記入させる。 ○ 意見が違うときに話し合ったことや、他の人の意見を聞いてなるほどと思った気持ちが大切であることをまとめとして押さえる。

板書例

行事を行う上で大切だと思ふことを考えよう。

○テーマ

合唱コンクールで大切だと思ふこと

○ダイヤモンド・ランキングの方法

- ① 9種類のカードを大切だと思ふものから順位を付け、ダイヤモンドの形に並べる。
- ② グループになり、それぞれカードの位置付けについての理由を説明した後、グループ内でカードの順位を話し合つて決める。
- ③ グループごとに話し合つて決めたカードの位置付けと、その理由を発表する。

【話し合いの約束】

- ・全員の考えをきちんと最後まで聞く。
- ・考えが自分と違つても「それはおかしい」「間違つている」などと言わない。
- ・多数決では決めない。
- ・少ない意見も大切な考えであり、新しい発見があるかもしれないのでよく聞く。
- ・強く意見を言う人の言いなりにならない。
- ・ほかの人の考えを聞いてなるほどと思つたら自分の考えを変える。

○ダイヤモンド・ランキングを通して気付いたこと

- ・友達と話し合うことで、相手のことがよく分かつた。
- ・自分では気付かなかつた考えを知ることができた。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	<p>1 自分たちの学校のよいところについて考え、グループ（班）で交流する。</p> <p>2 「より良い学校づくり」をテーマに、「ダイヤモンド・ランキング」を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【カードの内容例】 「特別の教科 道徳」の内容項目等を参考に9種類のカードを用意しておく。 (思いやり、感謝、礼儀、友情、信頼、相互理解、寛容、公德心、公正・公平 等)</p> </div> <p>(1) 個人で考え、自分の意見をもつ。 (2) グループ内で伝え合い、グループの意見をまとめる。 (3) 学級全体で、各グループの意見を伝え合う。 (4) 全体の意見を見て、分かつたことを伝え合う。</p>	<p>○（導入を受けて）ここでも自分とは違うものの見方や考え方があることに気付かせる。</p> <p>○「話し合いの約束」（「板書例」を参照）を確認した上で、活動させる。</p>

資料等

○行事「合唱コンクール」を例に取り上げた場合のワークシート（例）

合唱コンクールのダイヤモンド・ランキング

合唱コンクールで大切だと思ふことをランキングにしてください。

順位	カード	自分の理由	グループの理由 (自分とは違う、なるほどと思つた)
	① 練習量 (どのくらい練習したか。)		
	② 団結力 (みんなの心が一つになったか。)		
	③ 責任感 (自分の役割を果たせたか。)		

◆学習のねらい

言葉や感情表現によって相手への意思の伝わり方が異なることを理解させるとともに、自分の意思を正しく伝え、受け止めてもらえるような表現を行っていかうとする態度を育てる。

◆評価

3種類の自己表現（攻撃的、アサーティブ、非主張的）についての活動を通して、自他を尊重する望ましい自己表現の方法について理解している。

◆教育課程における位置付け

特別活動

◆主な使用教材

・ワークシート

展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習を知る。	
	望ましい自己表現とはどのようなものかを考えよう。	
展開 35分	<p>今日は、自分も相手も大切にする自己表現であるアサーションという考え方を通して、望ましい自己表現について、考えていきましょう。</p> <p>2 場面1「あなたならどうする？」を行う。</p>	<p>○ コミュニケーションがうまくいかずに、嫌な思いをしたことがないか想起させる。</p> <p>○ 表情、身振りや手振り、姿勢等がコミュニケーションに与える役割について考えさせ、生徒が前向きな気持ちになるようにする。</p> <p>○ 1分程度でワークシートの場面1に取り組ませる。</p>
	<p>3 アサーションについて説明を聞く。 攻撃的(アグレッシブ)な表現、アサーティブな表現、非主張的(ノン・アサーティブ)な表現について確認する。</p> <p>4 三つのタイプの自己表現を更に理解するために、場面2「映画を見に行こうよ！」を行う。</p>	<p>○ 場面1の三つのタイプの自己表現が、【資料等】に示す三つの自己表現であることを踏まえて確認する。</p> <p>○ 生徒から自然に意見を引き出し、アサーションの考え方から説明させる。</p> <p>○ 自己表現の違いによって、他者に与える印象の違いがあることを考えさせる。</p>
	<p>5 発表を行い、意見を述べ合う。</p>	
まとめ 10分	<p>6 本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アサーションの考えを生かして、学校生活を送りたいと思う。</li> <li>・ 言い方によって、相手の受け止められ方が変わってくるのが分かった。</li> </ul>	<p>○ 気付いたり、感じたりしたことを記入させる。</p>
	7 ワークシートにまとめを記入する。	

板書例

望ましい自己表現とはどのようなものかを考えよう。

○アサーションとは・・・

↓自分の欲求、考え、気持ちなどを、素直に、正直に、相手のことも配慮しながら、その場の状況に合った適切な方法で表現すること

【場面1】『あなたならどうする？』

※選択肢の中から、「自分ならこうする」というものを選ぶ。

○自己表現の三つのタイプ

攻撃的（アグレッシブ）な表現  
アサーティブな表現  
非主張的（ノン・アサーティブ）な表現

【場面2】『映画を見に行こうよ！』

※友人に対して、三つのタイプの自己表現で対応する。

○三つのタイプの自己表現を発表しよう。

○活動を振り返って

・アサーションの考えを生かして学校生活を送りたいと思う。  
・言い方によって、相手の受け止められ方が変わってくるのが分かった。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 35分	<p>1 アサーション（適切な自己表現）について説明を聞く。</p> <p>2 相手にうまく気持ちを伝えられなかった経験について、話し合う。</p> <p>3 アサーションの考え方を生かし、どのような話し方なら、相手も自分も尊重して思っていることを伝えられるかを検討する。</p>	<p>○ 教師の体験談を例として伝え、話合いの見通しをもてるようにする。</p> <p>○ 3、4人ほどのグループで話合いを行わせる。</p> <p>○ 相手を大切にしながら、自分の思いをきちんと伝えるという点を踏まえて指導に当たる。</p>

資料等

○ワークシート（例）

アサーション：自分の欲求、考え、気持ちなどを、率直に、正直に、相手のことも配慮しながら、その場の状況に合った適切な方法で表現すること ※アサーティブとは、アサーションが実現されていること

自己表現（人間関係のもち方）には三つのタイプがあり、②のタイプをアサーションと考える。

① 自分のことを優先し、他者を無視・軽視する自己表現  
「攻撃的」「アグレッシブ」「きつい言い方」 I am OK, You are not OK

② 自分のことをまず考えるが、他者のことも十分に配慮する自己表現  
「アサーティブ」「さわやかな言い方」 I am OK, You are OK

③ 自分よりも他者を優先し、自分のことを後回しにする自己表現  
「非主張的」「ノン・アサーティブ」「はっきりしない言い方」 I am not OK, You are OK

**場面1 「あなたならどうする？」**

卒業後の進路についての三者面談を翌日に控えて、あなたは保護者と進路について話をしています。あなたは、技術を身に付け資格を取得するために専門学校へ進学したいと考えていますが、保護者は、「卒業後は大学に行きなさい。」と勧めます。このようなとき、あなたならどうしますか。「自分ならこうする」というものを選んで、□に印を付けましょう。

1 「うるさいな！大学になんか行かないよ！」と怒って、どなりつけるように自分の意見を保護者に言う。

2 自分の意見を言うと保護者に反対されたり怒られたりするから、何も言えずに黙ってしまう。

3 「大学に進学するよりも、専門学校に行きたい。その理由は、…」と自分の意見や考えを保護者に伝える。

**場面2 「映画を見に行こうよ！」**

あなたは、友人と今度の日曜日と一緒に遊びに行くことになりました。友人は、「是非見たい映画があるから一緒に見に行こうよ。」とあなたに提案しました。しかし、その映画は、あなたが見たくない映画でした。友人に対して、3種類の表現で対応してください。



◆学習のねらい

コミュニケーションとは、互いに意思や感情、思考を伝達し合うことであり、言葉や文字だけでなく、声の大きさや話し方や態度などが大きな役割を果たすことを理解させる。

◆評価

相手と意思疎通し、望ましい人間関係の構築方法について理解している。

◆教育課程における位置付け

国語、(保健)体育、自立活動等

◆主な使用教材

- ・ 2枚1組のカード
- ・ 掲示用模造紙 (各児童・生徒用の欄が作成されているもの)
- ・ 画用紙 (B6用紙の大きさのものがよい。)
- ※画用紙は、学級の実態に応じて付箋などに代えてもよい。

展開例

	学習活動 (・児童・生徒の発言例)	○指導上の留意点
導入	1 本時の学習を知る。	
	相手に協力し、気持ちを伝え合おう。	
	2 コミュニケーションとは何かを考える。 (1) コミュニケーションは、人が社会生活を営む上で必要不可欠なものであることを理解する。 (2) コミュニケーションの手段は言葉が中心であるが、言葉だけではないことを知る。 ・ 顔の表情でも気持ちを伝えられる。 ・ 言葉を使わないと難しい。	○ めあて・内容等を視覚的に示す。 ○ 一方的に教師の話聞くだけでなく、質問したり、それに答えたりして、相互的コミュニケーションを進めていく。 ○ T1は授業を進め、T2は児童・生徒の支援を行う。 ○ 言葉のほかに、どのようなコミュニケーションの手段があるのかを考えさせる。 ○ 例として、複数の顔の表情で挨拶をした時、相手にどのような印象を与えるかを考えさせる。
3 挨拶のロールプレイングなどを例にして、今日の授業の主な活動がコミュニケーションを用いたゲーム活動であることを理解する。		
展開	4 活動のルールの説明を聞く。	○ ルールを理解させる。
	<p>&lt;ルール&gt;</p> <p>① 2枚1組のカードを教室にばらばらにして置く。</p> <p>② 各自が1枚だけカードを拾う。</p> <p>③ 自分とペアになるカードを持っている人を探す。</p> <p>④ ペアの相手と会釈やアイコンタクトをして得意なことをそれぞれ一つ伝える。 (※「得意なこと」としているが、学級の実態に応じて「相手の良いところ」などと変えてもよい。)</p> <p>⑤ ペアの相手の得意なことを画用紙に書き、児童・生徒の実態に応じ、握手等をして渡す。 (「相手の良いところ」等に変えた場合は、お礼を言うようにするとよい)</p> <p>⑥ 掲示用模造紙まで行き、自分の箇所にカードを貼る。 (以下、②から⑥までを複数回繰り返す。)</p>	
	5 教師のやり方を見る。	○ なるべく自分で考えさせるようにするが、うまくいかない場合は、教師が視覚的に分かりやすく説明をする。
	6 ペアを探す活動を行う。	○ 必要に応じて、教師がモデルを示す。
まとめ	7 協力しようとしていたか、意思疎通ができていたかについて教師の評価を聞き、活動を振り返る。	○ ねらいについてのみ評価する。

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

互いの個性の理解

望ましい人間関係の構築

規範意識の醸成

教員研修プログラム

いじめ問題への対応事例

保護者プログラム

地域プログラム



板書例

相手に協力し、気持ちを伝え合おう。

○コミュニケーションとは何か

- ・自分の考えを相手に伝えること。
- ・話し合うこと。

↓コミュニケーションの方法は言葉だけでなく、いろいろな方法がある。

- ・顔の表情でも気持ちを伝えることができる。
- ・言葉を使わないと難しい。

○コミュニケーションを用いたゲーム活動をしよう。

【活動のルール】

- ①一枚だけカードを拾う。
- ②自分とペアになるカードを持つている人を探す。
- ③ペアの相手を見付けたら、得意なことをそれぞれ一つ伝える。
- ④ペアの相手の得意なことを画用紙に書き、握手をして渡す。

○活動を振り返ろう。

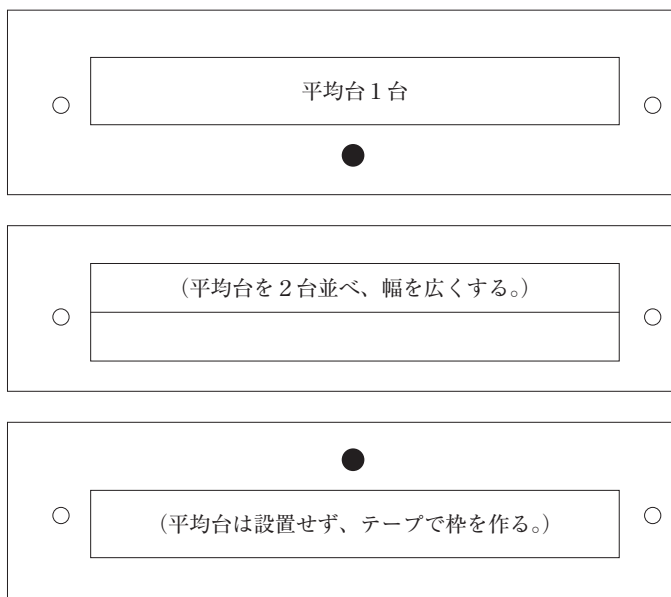
資料等

○その他の実践例 1

平均台の両端に一人ずつ立ち、平均台の反対側まで様々な方法ですれ違い、二人とも落ちないで渡る。本実践は、ルールをはっきりと意識させることがポイントである。近くにいる教師は、児童・生徒がうまくいくよう言語指示し、身体介助をする。また、すれ違う方法は教師が指示するのではなく、なるべく自分で考えさせるようにする。

場の設定の図（体育館やプレイルーム）

複数の教師で対応し、コースの難易度別に分けた場を設定する。



(ルール)  
 ・すれ違いは自由とする。  
 ・失敗しても相手のせいにはいけない。

▲コーン Aグループ

▲コーン Bグループ

▲コーン Cグループ

マークについて  
 (●教師 ○児童・生徒 ▲コーン)

○その他の実践例 2

【お助けおにごっこ】<ルール>

- 1 お助けマン役とおにごっこ役を決める。
  - ・ お助けマンは、帽子をかぶる。
  - ・ おにごっこには、たすきなどを掛ける。
- 2 ほかに人はおにごっこに捕まらないように逃げる。
  - ・ おにごっこにタッチされたら、その場で止まる。
  - ・ お助けマンにタッチされると動けるようになる。

◆学習のねらい

いじめは、相手の心や体を傷付ける行為であることを理解させるとともに、いじめのない素敵な学級にするために自分に合ったよりよい解決方法を意思決定できるようにする。

◆評価

いじめは、相手の心や体を傷付ける行為であることを理解するとともに、いじめのない素敵な学級にするために自分に合ったよりよい解決方法を意思決定している。

◆教育課程における位置付け

特別活動

◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校1・2年生版 心あかるく』
- ・イラスト資料

展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	<p>1 学級の良いところを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気に挨拶している。</li> <li>・友達と仲良くできる。</li> <li>・給食や掃除当番をみんなで頑張っている。</li> </ul> <p>2 本時の学習を知る。</p>	<p>○ 学級の良さを具体的に考えられるように、『心あかるく』の108、109ページの写真を提示するなどして、参考にできるようにする。</p>
	いじめのない、すてきな学級にするために、どのようなことをすればよいか考えよう。	
	<p>3 いじめに関するイラストを見て、考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめはいけないことだ。</li> <li>・仕返しをするのはいけない。</li> <li>・笑っている子もいけない。</li> <li>・先生や大人に相談した方がよい。</li> </ul>	<p>○ いじめのイラストを掲示する。</p> <p>○ いじめている子、いじめられている子のほかに、はやし立てたり笑ったりしている子、見ている子がいることを知らせる。</p> <p>○ いじめが、相手の心や身体を傷付ける重大な行為であることに気付かせる。</p>
展開 25分	<p>4 自分の周りでいじめが起こったときどうするか考える。</p> <p>◇ 自分のまわりでいじめが起きたら、どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する。</li> <li>・先生に言う。</li> </ul> <p>5 いじめのない素敵な学級にするためのルールを考える。</p> <p>◇ いじめのないすてきな学級にするために、一人一人がどのようなことをすればよいですか。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) 4人程度のグループで、それぞれ考えたルールを発表し合う。</p> <p>(3) グループごとに、出されたルールをまとめ、学級全体に発表する。</p>	<p>○ 身近な大人に伝えることが大事であることを知らせる。</p> <p>○ 幾つか考えが出された後、同じような気持ちになったことはないかを確認しながら板書する。</p> <p>○ 互いのよさを認め合うことが大切であることを確認させる。</p>
まとめ 10分	<p>6 いじめのないすてきな学級をつくるために、自分が行動することを決め、『心あかるく』の109ページに、「学級をもっとすてきにするために、どんなことができるか」の欄に書く。</p>	<p>○ これからすてきな学級にするためにしていきたいことという観点で自分のすることを決めさせる。無理に一つに絞ることはせず、複数あってもよい。</p> <p>○ 帰りの会などで、自分の決めた行動ができていないかについて振り返らせる。</p>

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

互いの個性の理解

望ましい人間関係の構築

規範意識の醸成

教員研修プログラム

いじめ問題への対応事例

保護者プログラム

地域プログラム

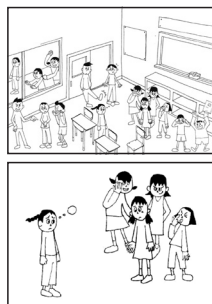
板書例

いじめのない、すてきな学きゅうにするためにどのようなことをすればよいか考えよう。

学きゅうのよいところ

- ・ げん気にあいさつしている。
- ・ ともだちとなかよくできる。
- ・ きゅうしよくやそうじとうばんを、みんなでがんばっている。

イラストを見てかんがえたこと



- ・ いじめはいけないことだ。
- ・ しかえしをするのはいけない。
- ・ わらっている子もいけない。
- ・ 先生やおとなにそうだんしたほうがよい。

○じぶんのまわりでいじめがおきたら

- ・ ちゅういする。
- ・ 先生にいう。
- ・ みぢかなおとなにいうことだ。

○いじめのないすてきな学きゅうにするためにどのようなことをすればよいか。

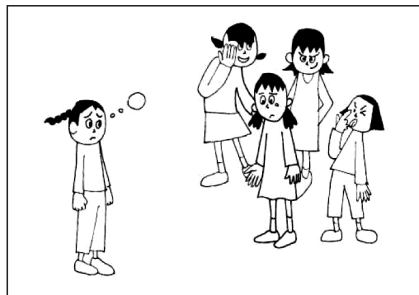
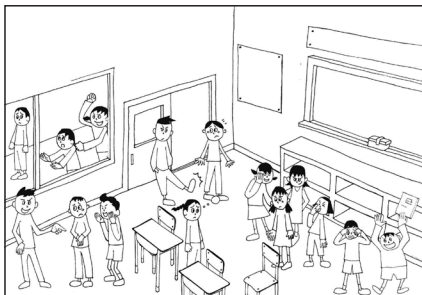
- ・ みんなでなかよくあそぶ。
- ・ たがいのよさをみとめあう。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 25分	<p>1 「授業中」、「休み時間」、「掃除の時間」のそれぞれの場面についてグループごとに分担し、担当する「場面」について、いじめのない素敵な学級をつくるために、どのようなことをすればよいかグループで話し合う。</p> <p>◇ 分担した場面について、いじめのない素敵な学級にするために、一人一人がどのようなことをすればよいか話し合みましょう。</p> <p>(例)「授業中」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の話をうなずきながら聞く。</li> </ul> <p>(例)「休み時間」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰とでも仲良く遊ぶ。</li> </ul> <p>(例)「掃除の時間」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなで協力してそうじする。</li> </ul> <p>2 話し合ったことをグループごとに発表する。</p> <p>◇ 話し合ったことについて発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 決まりや約束を守ること、自分もみんなも気持ち良く生活することができるということに気付かせる。</li> <li>○ 一部の行動を戒めるという視点ではなく、みんながより良く生活できるという視点で考えさせる。</li> </ul>

資料等

○いじめのイラスト (例)



## 規範意識の醸成

### ◆学習のねらい

いじめが起きたときにどうすればよいか考えることを通して、いじめをしない、させない、見過ごさない、見て見ぬ振りをしない態度を育てる。

### ◆評価

いじめが起きたときにどうすればよいか考えることを通して、自分たちで決まりをつくって守ろうとする意識を高めている。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

### ◆主な使用教材

- ・DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫? 児童・生徒指導編 小学校編』(16分)
- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校3・4年生版 心しなやかに』

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	1 いじめに関するDVDの一部を視聴して、自分の考えをもち、発表する。 ◇ この事例では、どうすればよかったか。 ◇ DVDの事例について、実際に遭遇した場合、自分ならどうするか。  2 本時の学習を知る。	○ 『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』のはじめの5分間の事例から、いじめる立場、いじめられる立場、見ている立場の気持ちを考えさせるようにする。 ○ いじめの未然防止に関わる学級の決まりについて、考える必要性に気付かせる。
みんなで、いじめのない、すてきな学級にするために、決まりを見直そう。		
展開 25分	3 自分たちの学校や学年、学級等のいじめに関する決まりやルールについて確認し、自分たちの生活を振り返る。 4 決まりやルールを守ることの良さや、守るために必要なことについて話し合う。	○ 相手や周りの人の立場に立ち、より良い人間関係を築くことの大切さに気付かせるように声掛けを行う。
まとめ 10分	5 学級の決まりを守るために、今後の自分の生活について見通しをもち、考えたことを木の葉の形の画用紙に書き、模造紙に貼る。	○ 決まりを守り、いじめを防ぐために、自分が取り組むことについて考えさせる。 ○ 授業後も、決まりやルールを守れているかについて声掛けをする。

### 板書例

みんなで、いじめのない、すてきな学級にするために、決まりを見直そう。

#### DVDを見て考えたこと

- どうすればよかったか。
- 自分だったら、どうするか。

#### □年□組の決まり

- ・ 相手が嫌がることをしたり、言ったりしない。
- ・ 誰とでも仲良く遊ぶ。
- ・ 先生の話をしっかり聞く。

決まりを守ると、どんなクラスになる?

- ・ いじめがなくなり、みんなが楽しく過ごせる。
- ・ 友達が増える。

これからも決まりを守っていくために、どんなことが必要か。

- ・ 相手のことを考える。
- ・ 本心に言っつてよいのかを考える。
- ・ 相手の気持ちをよく聞く。
- ・ 自分の気持ちを伝える。

## 発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 25分	1 『心しなやかに』の100ページを読み、「学校」、「家庭」、「地域」における約束や決まりについて考えるとともに、約束や決まりがある理由についても考える。	○ 時間がある場合は「約束や決まりが無かったらどうなるのか。」についても考えさせる。
	2 ペアになり、1で考えたことについて意見を交流する。	
	3 『心しなやかに』の101ページを読み、みんながもっと気持ち良く過ごすための決まりやマナー、それらが必要な場所や場面等について考える。	○ 「みんながもっと気持ち良く過ごすために」という視点を押さえながら考えさせる。
	4 グループになり、3で考えたことについて話し合い、まとめる。	○ 自分たちが必要とする決まりやルールを中心にまとめさせる。 ○ 授業後も、決まりやルールを守れているかについて声掛けをする。

## 資料等

### 人権教育ビデオ教材等の貸出について

東京都教職員研修センターでは、「人権教育資料センター」を設置しています。

当資料センターでは、同和問題をはじめ様々な人権課題に関わるビデオ教材、DVD等を多数所蔵し、貸出を行っています。

人権教育の推進・啓発のため、授業や教職員・保護者等対象の研究会・研修会等の機会に、当資料センターの人権教育ビデオ教材等を御活用ください。

東京都教職員研修センター Web ページから、「人権教育資料センター」を選択してください。  
「貸出用ビデオ一覧」、「借用書」及び「使用状況報告書」等をダウンロードしてお使いいただけます。

☆ビデオ教材等の詳細についてのお問合せや、御不明な点は、右記担当まで御連絡ください。

東京都教職員研修センター 研修部 教育開発課  
人権教育担当  
(住 所) 〒113-0033 文京区本郷1-3-3  
(電 話) 03-5802-0306 (直通)



◆学習のねらい

考え方や感じ方は人によって違っており、その違いを認めることが大切であることや、SNSをはじめとするインターネット上では「誤解」が生まれやすいことを理解させ、考えや気持ちを伝える方法を考えさせる。

◆評価

感じ方や考え方の違いを踏まえて、自分の考えや気持ちを相手に伝える方法を考えている。

◆教育課程における位置付け

特別活動

※社会科における「情報に関する学習」との関連を図ることができる。

◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『SNS東京ルール』（平成31年4月改訂）
- ・東京都教育委員会『SNS東京ノート3（小学校5、6年用）』（令和2年度版）

展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	1 コミュニケーションの手段には、どのようなものがあるか考える。	○ 対面での会話、手紙、電話、メール、SNS等、様々なコミュニケーションの手段があることを押さえる。
	自分の考えや気持ちを上手に相手に伝える方法を考えよう。	
展開 30分	2 自分が言われて嫌な言葉について考え、話し合う。 五つの中から自分が言われて嫌な言葉を選び、その理由を考える。（『SNS東京ノート3』P4上段） 考えを交流する。	○ 同じ言葉でも肯定的に捉える人と否定的に捉える人がいることを理解させる。 ○ 直接会話した時と、文字で伝えられた時の感じ方の違いについても気付かせる。
	3 自分がされて嫌なことについて考え、話し合う。 五つの事柄から自分がされて嫌な順に並べ、一番嫌なことと、一番嫌でないことを選ぶ。（『SNS東京ノート3』P4下段）	○ 同じことでも人によって捉え方が違うが、その違いを認め合うことが大切であるということに気付かせる。
	4 相手の感情を読み取ることの大切さに気付く。 『SNS東京ノート3』P5に取り組む。	○ 対面して会話することと比較し、SNSを介すると、相手の意図や感情を読み取りづらくなることに気付かせる。
	5 友達と話し合っ「マイSNS東京ルール」を作成する。	○ 自分と他者の違いを踏まえて、SNSを利用するときに、どのようなことに気を付けるかについて、自分の考えを書かせる。
まとめ 5分	6 「SNS東京ルール」及び「SNS学校ルール」を確認し、本時の学習で学んだことをまとめる。 『SNS東京ノート3』P5に取り組む。	○ 授業後、『SNS東京ノート3』を持ち帰り、保護者からのコメントをもらうことで、保護者の意識も高められるようにする。

板書例

SNS東京ルール

- ① スマホやゲームの一日の合計利用時間、使わない時間帯・場所を決めよう。
- ② 必ずフィルタリングを付け、パスワードを設定しよう。
- ③ 送信前には、誰が見るか、見た人がどのような気持ちになるか考えて読み返そう。
- ④ 個人情報を知ったり、知らない人と会ったり、自撮り画像を送ったりしない。
- ⑤ 写真・動画を許可なく撮影・掲載したり、拡散させたりしない。

- 自分の考えや気持ちを上手に相手に伝える方法について考えよう。
- コミュニケーションの手段
  - ・ 対面での会話
  - ・ メール
  - ・ SNS
  - ・ 電話
- 自分が言われて嫌な言葉
  - ・ 人によって嫌な言葉が違う
- 自分がされて嫌なこと
- 相手の感情を読み取ることの大切さ

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 25分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教師が例示するほかの言葉について、自分ならどう感じるかを考え、全体で話し合う。 (例)「まじめだね。」「一生懸命だね。」「個性的だね。」「マイペースだね。」等</li> <li>2 グループで、相手の顔が見えないSNSをはじめとするインターネットにおいて、自分の考えや気持ちを上手に相手に伝える方法について話し合う。</li> <li>3 グループで話し合った内容をまとめ、全体で発表する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 直接会話した時と、文字で伝えられた時の感じ方の違いについても気付かせる。</li> <li>○ 同じ言葉でも前向きに捉える人と否定的に捉える人がいることを理解させる。</li> <li>○ 「相手の顔が見えない」、「情報が広がりやすい」等のSNSをはじめとするインターネットの特性を踏まえた上で話し合わせる。</li> <li>○ 相手に誤解を与えない表現にするには、どうすれば良いのか考えさせる。</li> </ul>

資料等

「SNS東京ルール」(平成31年4月改訂版)

- ① スマホやゲームの一日の合計利用時間、使わない時間帯・場所を決めよう。
- ② 必ずフィルタリングを付け、パスワードを設定しよう。
- ③ 送信前には、誰が見るか、見た人がどのような気持ちになるか考えて読み返そう。
- ④ 個人情報を知ったり、知らない人と会ったり、自撮り画像を送ったりしない。
- ⑤ 写真・動画を許可なく撮影・掲載したり、拡散させたりしない。



◆学習のねらい

SNSの上手な使い方について学び、自分たちの身を守るためのルールを考え、行動できるようにさせ、インターネット上での規範意識を育む。

◆評価

SNSの利用に際してのトラブルなどを防止するために必要な「行動宣言」を考えることを通して、今後、「行動宣言」を守って行動しようとする気持ちをもっている。

◆教育課程における位置付け

特別活動

※社会科の公民的分野における「現代社会の特色（情報化社会）」や技術・家庭科の技術分野における「情報モラルに関する学習」との関連を図ることができる。

◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『SNS東京ルール』(平成31年4月改訂)
- ・東京都教育委員会『SNS東京ノート4』(中学生用)(令和2年度版)
- ・「SNS学校ルール (SNS家庭ルール)」
- ・「考えよう!いじめ・SNS@Tokyo」ウェブサイト

展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	<p>1 『SNS東京ノート4』の4ページ「自分と相手との違い」や8ページ「こんなつもりじゃなかったのに」を参考に、インターネットの利用状況を振り返り、日常生活で感じたこと（メリットやデメリット）を発表する。</p> <p>◇ 自分の経験だけでなく、友達から聞いた話や『SNS東京ノート』等も参考にして、インターネットを利用するときのメリットやデメリットを考えてみましょう。</p> <p>2 本時の学習を知る。</p>	<p>○ 自分専用の携帯電話やスマートフォン等の情報端末を持っていることが当然であるような指導をしないことに心掛けつつ、情報社会において必要なスキルや心構えの学習であることを伝える。</p> <p>○ 自分の経験だけに基づかず、携帯電話やスマートフォン等を持っている生徒と持っていない生徒のそれぞれの立場から考えさせる。</p>
SNSの上手な使い方を考え、「SNS学校ルール」を守るための学級の「行動宣言」を作ろう。		
展開Ⅰ 15分	<p>3 「考えよう!いじめ・SNS@Tokyo」ウェブページの「グループから外されそうになって…」や「匿名でつぶやいていたら…」のストーリーを読み、感じたことを発表する。</p> <p>◇ 同じようなトラブルに遭いそうになったり、危ないと思ったり、聞いたりしたことはありますか。また、なぜこうなったのか、どうすれば自分を守れると思いますか。</p>	<p>○ 「考えよう!いじめ・SNS@Tokyo」ウェブサイトについては、63ページの【資料等】を参照する。</p> <p>○ ネット上のトラブルについては『SNS東京ノート4』の「ネットの特性」も併せて読むことで理解を深めさせる。</p> <p>○ ネット上のトラブルをはじめ、様々な視点から、いじめについて考えさせる。</p>
展開Ⅱ 25分	<p>4 SNSの利用に際してのトラブルなどを防止又は解決するための「行動宣言」を考える。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) 4人程度のグループで、それぞれ考えた「行動宣言」を発表し合う。</p> <p>(3) グループごとに、出し合った「行動宣言」をまとめ、学級全体に発表する。</p> <p>5 学級での「行動宣言」を決める。</p>	<p>○ ウェブページ（アプリケーション）の事例を基に、学級の状況や課題等を踏まえた「行動宣言」を短冊や付箋紙に書き、話し合う。</p> <p>○ グループや全体で話し合う際に、短冊や付箋紙を「努力するポイント」と「してはいけないポイント」等に分類させ、考えを整理し、まとめやすくする。</p> <p>○ 他者の意見について、否定するのではなく、こうした考え方もあるということを確認合えるようにする。</p>
まとめ 5分	<p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ SNS東京ルールやSNS学校ルールを掲示し、SNSの上手な使い方を振り返り、今後も継続して考え、その時々々に解決していく問題であることを伝える。</p>

板書例

SNSの上手な使い方を考え、学級の「行動宣言」を作ろう。

○インターネットの利用状況

- ・友達とのメッセージのやりとりを終えることができず、スマートフォンをずっと使ってしまう。
- ・ゲーム機の通信で友達と夜遅くまで会話している。
- ・相手の気持ちを考えずに、メールを送ってしまった。
- ・親に、スマートフォンを使い方のルールを決められている。
- ・携帯電話やスマートフォンを持っていないので、友達とすぐ連絡を取りたいときに不便ことがある。

○この学級のための「行動宣言」とは？  
(努力するポイント)

- ・一日の利用時間と終了時刻を決める。
- ・やるべきことをしてからネットを使うようにする。
- ・フィルタリングを使う。
- ・文字だけのコミュニケーションであることに気を付ける。
- ・(してはいけないポイント)
- ・相手の気持ちを考えずにメール等を送らない。
- ・間違った捉え方をされたり、言いたいことが伝わらなかつたりすることがないようにする。
- ・自分や他者の個人情報を書けないようにする。

○「行動宣言」をみんなで守っていよう。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開Ⅱ 25分	<p>1 SNSの利用状況や課題等を踏まえ、「SNS東京ノート4」の20ページ「家庭のルールを考えよう」を活用し、「SNS家庭ルール」を見直す。</p> <p>(1) 個人で取り組んでいる点や改善すべき点を考える。</p> <p>(2) (1) で考えたことをグループ内で発表し、他の生徒は、取組等について助言する。</p> <p>(3) グループのメンバーからもらった助言を基に、今後改善すべき点をまとめる。</p> <p>2 「SNS家庭ルール」の改善案を考える。</p> <p>3 本時の話し合いを通して、学んだことをワークシートに記入する。</p>	<p>○ 以前考えた「SNS家庭ルール」が、SNSの利用に際してのトラブル防止策として、実効性があるのかという視点で、現在守ることができている点や改善すべき点等を考えさせる。</p> <p>○ 自主的・自発的な取組になるよう、また、実現できる、実効性のあるルールになるよう指導・助言する。</p> <p>○ 「SNS家庭ルール」の改善案について、家庭に報告することについても助言する。</p>

資料等

「考えよう！いじめ・SNS@Tokyo」ウェブページ及びスマートフォン用アプリケーションについて

上巻『学校の取組編』にも示されているように、子供が、身近な情報通信機器等を用いて、いじめの被害者にも加害者にもならないようにするとともに、いじめを受けた場合に大人に相談しようとする気持ちを後押しするために、独自にウェブページとスマートフォン用のアプリケーションを作成しました。

「考えよう！いじめ・SNS@Tokyo」スマートフォン用アプリケーションの概要

こころ空模様チェック



こころストーリー



スマートフォン用アプリケーションをインストールできない環境への対応として、アプリケーションと同様の内容を体験することができるウェブページを作成しています。

ウェブページの利用及びスマートフォン用アプリケーションのダウンロードは、以下のアドレスのページから行うことができます。

**【ウェブページアドレス】**  
<http://www.ijime.metro.tokyo.jp>



◆学習のねらい

SNSを介したトラブルやいじめについて知り、加害者にも被害者にもならないための防止策や、対処方法を身に付けさせ、インターネット上での規範意識を育む。

◆評価

SNS上で起こり得るトラブルやいじめの実態について理解し、それらを防止する方法や起きてしまった時の解決方法等について考えている。

◆教育課程における位置付け

特別活動

※人間と社会における「第6章 ネット時代」や共通教科情報科における「情報モラルに関する学習」との関連を図ることができる。

◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『SNS東京ノート5（高等学校用）』
- ・模造紙（タブレットパソコン等のICT機器の活用も考えられる）
- ・DVD『STOP！ いじめ あなたは大丈夫？』児童・生徒指導編 高等学校編（ネット上のいじめ）

展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 自らのSNSの利用状況について振り返り、2人組で話し合う。	○ 生徒の日常生活でのSNSの利用状況や、利用における課題、トラブル等について話し合わせる。 ○ SNSによるトラブルだけでなく、SNSの利便性についても取り上げる。
	SNS利用上のトラブルや、いじめに対する防止策・対処法を考えよう。	
展開 40分	2 SNS利用上のトラブルやいじめの具体例を挙げ、防止策や対処法を考える。 (1) 自分の経験や聞いたこと等をワークシートに記入する。 (2) 4人程度のグループになり、自分の経験や聞いたことなどを基に、具体例を模造紙に書く。 (3) 具体例について考え、問題点とその防止策や対処法を付箋紙に書き、模造紙に貼る。 (4) グループをローテーションし、ほかのグループが考えた具体例に対して、(3)の作業を行う。 (5) グループごとに、出された問題点、その防止策、対処方法をまとめ、発表の準備を行う。 (6) グループごとに学級全体で発表する。	○ インターネットの特性を理解させ、相手の気持ちを考えることの大切さや、悪質な誹謗中傷などのいじめは犯罪となる可能性があることなどについて考えさせる。 ○ 問題点とその防止策や対処法を書き込む際には、色別の付箋紙を利用する。 例：問題点（赤）、防止策（青）、対処法（黄）  ○ 発表の際はグループのメンバー全員が関わる発表となるよう指導する。  ○ 各グループから出た意見を基に、学習のポイントを板書し、全体でまとめる。
まとめ 5分	3 学習を通して気付いたこと、他の人の考えなどから学んだことをワークシートにまとめる。	○ SNS上のいじめも、相手の心や体を傷付ける重大な行為であり、犯罪につながる行為であることを理解させる。



## 板書例

SNS利用上のトラブルや、いじめに対する防止策・対処法を考えよう

○SNS利用上の課題やトラブルについて、考えよう。

- ・個人情報の掲載
- ・不適切な書き込み
- ・個人に対する攻撃
- ・安易な書き込みとその影響

○SNS利用上のトラブルやいじめの具体例を挙げよう。

- ・勝手に個人情報を載せられた例
- ・グループを外されて人間関係がこじれた例
- ・自分の知らない所で悪口を書かれていた例
- ・知らない人とのやり取りでトラブルになった例

○問題点とその防止策・対処法を考えよう。

- ・簡単に個人情報や画像を公開しない。
- ・軽い気持ちで書き込みしない。
- ・誤解を生む表現を避ける。
- ・相手がどのような気持ちになるか考える。

〈SNS利用上のポイント〉

- ・相手の気持ちを考える。
- ・インターネットの特性を理解する。
- ・情報はすぐに、不特定多数に拡散され、削除が困難である。
- ・悪質な誹謗中傷や許可を得ない画像の使用等、犯罪となることもある。

※トラブルに遭ったり見付けたりしたら、保護者や教員、相談窓口等に迷わず相談する。

## 発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 40分	<p>1 ネットいじめに関するDVDを視聴し、いじめの被害者の気持ちを考える。</p> <p>(1) 『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(高等学校編)の初めの5分30秒間を視聴した時点で、映像を止め、いじめを受けている主人公の気持ちを考える。</p> <p>(2) 自分の経験や聞いたことなどをワークシートに記入する。</p> <p>(3) ペアになり、自分が考えた気持ちを話し合う。</p> <p>2 DVDの事例における問題点や、第三者としての行動や防止策・対処方法を考える。</p> <p>(1) もし自分が第三者の立場で、事例のメールを受け取ったら、どのように行動するのか考える。</p> <p>(2) グループで考えを交流し、SNS利用上のトラブルやいじめに対する防止策や対処方法を考える。</p> <p>3 グループで考えたSNS利用上のトラブルやいじめに対する防止策や対処方法を学級全体で共有する。</p> <p>4 『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(高等学校編)の残りの映像を視聴し、いじめ問題への理解を深める。</p>	<p>○ DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(高等学校編)の初めの5分30秒間(ネット上のいじめ)を視聴させる。</p> <p>○ DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(高等学校編)の10分30秒間(ネット上のいじめ)まで視聴させる。</p> <p>○ 実際に生徒が気を付けていることを挙げさせるようにする。</p> <p>○ DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(高等学校編)を最後まで視聴させる。</p>

## 資料等

インターネットによるトラブルの相談窓口

○ネット・スマホのなやみを解決「こたエール」 電話：0120-1-78302

〈電話相談〉月曜日～土曜日 15時～21時 ※祝日除く

〈LINE相談〉月曜日～土曜日 15時～21時 (受付は20時30分まで) ※祝日除く

〈メール相談〉(24時間いつでも受付中) [https://www.tokyohelpdesk.metro.tokyo.lg.jp/contact/net\\_soudan.cgi](https://www.tokyohelpdesk.metro.tokyo.lg.jp/contact/net_soudan.cgi)

○東京都教育相談センター「東京都いじめ相談ホットライン」 電話：0120-53-8288 (24時間対応・通話無料)

◆学習のねらい

いじめをなくすために、自分ができることを考えるを通して、いじめをしない、させない、見過ごさない、見て見ぬ振りをしないための態度を育てる。

◆評価

いじめについて自分で考え、いじめをなくすために自分ができることをしようとする意識を高めている。

※実施の時期や学年によっては、キャリア教育と結び付け、社会に出たときに、いじめに対して、どのように対応していくのかを考えることをねらいにしてもよい。

◆教育課程における位置付け

特別活動

◆主な使用教材

- ・DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』(児童・生徒指導編 中学校編)
- ・ワークシート

展開例

	学習活動（・児童・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入	<p>1 居心地の良い学級とはどのような学級であるかを発表する。</p> <p>◇「居心地が良いクラス」とは、どんな学級ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思ったことを発言できる。</li> <li>・お互いを認め合える。</li> <li>・自分の良いところが生かせる、伸ばせる。</li> </ul> <p>2 本時の学習を知る。</p>	<p>○「居心地の良い学級」とは、学級にいることによって、互いを認め合い、自分の良いところが生かせる、伸ばせる学級であることを確認する。</p>
いじめられたり、その場面に出会ったりしたときの対応を考えよう。		
展開	<p>3 【DVD視聴】いじめについて考える（視聴5分）。視聴後、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうして、いじめられるのか分からない。</li> <li>・ 友達だから、嫌とは言えない。</li> <li>・ 遊びと同じ感覚でやっている。</li> </ul> <p>4 【DVD視聴】いじめられたとき、その場面に出会ったときに、どのようにすれば良いかを考え、互いの意見を聞く（視聴5分）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめられていることを先生に相談する。</li> <li>・ いじめられていることを親に話す。</li> <li>・ いじめられている人の相談に乗る。</li> <li>・ いじめの相談は、必ず大人にする。</li> </ul>	<p>○ DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』のはじめの5分間の事例（かばんを持たせる、かばんを蹴る）を視聴させ、いじめられる側の気持ち、いじめる行為について考えさせる。ワークシートを活用して感想を引き出す。</p> <p>○ DVD『STOP!いじめ あなたは大丈夫?』の続きを視聴させ、いじめへの対応について考えさせる。ワークシートを活用して感想を引き出す。</p>
まとめ	<p>5 振り返りを行う。</p> <p>(1) 【DVD視聴】続きから最後まで視聴する。</p> <p>(2) 今後、いじめられたり、その場面に出会ったりしたときにすること、自分ができることを確認する。</p>	<p>○ これまでの学習を振り返らせ、自分が具体的にできることをワークシート等に記入していることを確認する。</p>

いじめをしない、させない、見過ごさないための意識の醸成

互いの個性の理解

望ましい人間関係の構築

規範意識の醸成

教員研修プログラム

いじめ問題への対応事例

保護者プログラム

地域プログラム

## 板書例

いじめられたり、その場面に会ったりしたときの対応を考えよう

## ○居心地の良い学級とは

- ・思ったことを発言できる。
- ・助け合える。

## ○DVDを見て思ったこと

- ・どうしていじめられるのか分からない。
- ・友達だから、いやとは言えない。
- ・遊びと同じ感覚でやっている。

○いじめられたとき、その場面に会ったときに、どのようにすればよいか。

- ・いじめられていることを親に話す。
- ・いじめられている人の相談に乗る。

## ○活動の振り返り

いじめられたり、その場面に出会ったりしたときにすること、自分ができること

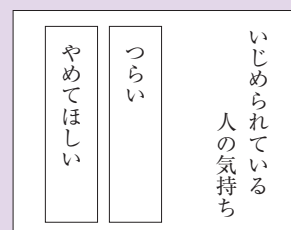
## 資料等

## 展開の工夫① 短冊を活用してまとめる。

〈板書例〉

ワークシート等を用いて個人の考えをまとめる方法のほかに、グループワークによって考えをまとめていく方法もあります。

グループでまとめた意見や考えを大きめの短冊にまとめ、発問ごとに黒板に掲示していくと、グループの意見交流や考えのまとめなど、全体での共有を効果的に行うことができます。



## 展開の工夫② 具体的な内容を選択肢で示す。

発達の段階によって、ほかの人の立場になって考えたり、気持ちを考えたりすることが苦手な児童・生徒もいます。そのような場合は発問を、「いじめられている人は、どんな気持ちですか。」ではなく、「いじめられている人を見たらどうしますか。」や「いじめられたときどうしますか。」とし、さらにその時の具体的な行動を選択肢で示します。

ワークシートでの取組や、選択肢を大きなカードで示し、そこに集まるなど周囲の人の様子を見えるようにする工夫も考えられます。

〈例〉「いじめられている人を見たらどうしますか。」

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| ア 家の人や先生など、大人に知らせる。 | イ 助けるために、いじめを止める。 |
| ウ その場から逃げる。         | エ 何もせず、だまって見ている。  |

## 展開の工夫③ 演じることを通して理解を促す。

発達の段階によって、映像から情報を理解することが難しい場合、演じることが理解の助けになることがあります。

具体的には、実際に演じてみるロールプレイングを行ったり、モデルとして教員や学級の代表が演じるのを見たりするという方法が考えられます。自分自身が体験することで理解できることや、身近な人が演じることで実感しやすくなることが期待できます。

